

- 「東南海・南海地震に備えて」～安全安心なまちづくり～(P.1)
- 『新開地まちづくり構想5』/下唐櫃地区「まちづくり構想」の提案 (P.2)
- 名取市への派遣～復興計画への支援を振り返る その1(P.3)
- まちづくりライブラリー図書紹介～防災について考える～ ほか(P.4)

発行：こうべまちづくりセンター

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matsisen/>

## 「東南海・南海地震に備えて」～安全安心なまちづくり～

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方の太平洋沖を震源とするM9.0の地震が発生し、広範囲にわたり被害を受けました。特に津波による被害は、従来の想定を越える甚大なものでした。

神戸市では、東南海・南海地震発生の可能性が高まっており、地震による揺れと津波への警戒と対応がより一層求められています。

### ■これまでの想定及び対策

東南海・南海地震は、今後30年以内に発生する確率が、東南海地震で約70%程度、南海地震が約60%とされています。



(地震調査研究推進本部発表、平成23年1月1日を起点とした確率)

これまでの、東南海・南海地震が発生すると、神戸市域では、震度5弱以上（最大震度は6弱）、津波は第1波が約80～110分で到達し、最大で2.5mまで潮位が上昇し、防潮扉等が閉鎖できない場合には、東灘区、中央区、兵庫区、長田区の沿岸部の一部で浸水被害が発生するおそれがあるとしてきました。

平成14年7月に「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（以下、「東南海・南海地震特措法」という。）が公布され、神戸市は東南海・南海地震特措法の規定に基づき、推進地域に指定されました。この指定を受け、神戸市では、平成16年6月に「神戸市東南海・南海地震防災対策推進計画」を策定しました。この推進計画の内容は、津波からの防護及び円滑な避難の確保に関する事項、地震防災上緊急に整備すべき施設等について定めています。推進計画に基づき、津波に備える範囲や避難先となる場所・施設等を定めるとともに、地



(現在の想定：兵庫県津波被害想定調査より)

域防災力を向上するために地域住民等による避難のための行動・組織運営計画づくり、津波防災マップ作成などの地域津波防災計画の作成を支援してきました。



計画書及び津波防災マップの例

### ■国等の動き

国においては、中央防災会議に「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」を設置し、秋頃に最終とりまとめを行うため、検討を進めています。

専門調査会の結果を踏まえ、東南海・南海地震等、今後想定される地震の揺れや津波高さなどの被害想定、防災基本計画の見直しを進めていく予定です。

### ■今後の対応

神戸市では、国・県等の被害想定の見直しを踏まえ、神戸市地域防災計画を再検討していく予定です。

しかし、国・県等の被害想定の見直しに時間を要するため、当面は、兵庫県が防災専門家等の意見を踏まえたうえで示す暫定の津波高さ（従来の想定との2倍の津波高さ）に対応して、策定済み地区での地域津波防災計画の見直しや未策定地区での地域津波防災計画の策定の働きかけを行い、地域での取り組みの支援を行うなど、津波からの円滑な避難を確保するための取り組みを進めていきます。

### ●神戸市の地域津波防災計画支援メニュー

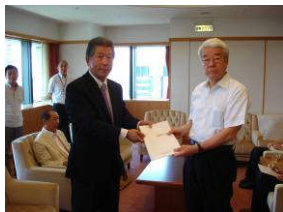
- ・災害時の対応や計画策定方法等の技術的支援
- ・計画書の印刷経費等の資金的支援
- ・コンサルタント派遣による合意形成支援

(危機管理室)

## 『新開地まちづくり構想5』の提案!!

新開地は、明治に誕生して以来、映画をはじめとする娯楽の中心地として、庶民に親しみと安らぎを与え、神戸の都市文化の礎を築いてきました。

しかし、戦後、沈滞化が進む中で、かつての活況を復活させ、再び新開地を発展させたいと昭和59年に「新開地周辺地区まちづくり協議会」が設立され、まちづくりがスタートしました。昭和61年に将来ビジョンとして「まちづくり構想」を策定し、その後、まちを取り巻く環境の変化に対応しながら「構想2」～「構想4」と改定してきましたが、このたび平成29年末までの6年間を目標とするまちづくりのビジョンである「まちづくり構想5」を取りまとめ、7月26日に神戸市長に対して提案を行ないました。



### ◆「まちづくり構想5」の目標◆

**「B面の神戸・新開地」～身近で、気軽に、愛されるまち～**を目標にかかげ、これまでの取り組みを継続しつつ、新開地の典型的な魅力要素に加え、以下の3つの新住民や周辺に勤める人々が気軽に来街し、リピートしてもらえるコンテンツ（魅力素材）づくりなどの取り組みや、それに伴う環境整備により、魅力空間づくりを推進していきます。

●今ある新開地らしい魅力（レトロ、老舗飲食店、芸能など）に、新しい店舗や施設などで新たな魅力を加え、相乗効果をはかる。

- 「音楽祭」などで新開地のまちを体験した市民が、気軽に繰り返し訪れたいくなる要素や機会を生み出し、まちのファンとしての定着をはかる。
- ハード整備では、まちの居心地や移動のしやすさを高めたり、公共空間の利活用など、ソフト事業に活かせる魅力的な都市環境を創り出す。

### ◆実現に向けて◆

新開地では、まちづくり構想の実現に向けて29のプロジェクトを掲げ、先導する3つの重点戦略プログラムに取り組むこととしています。

### 3つの重点戦略プログラム

#### ①魅力店舗の集積誘致

魅力店舗の立地を誘発していくため、出店者の発掘と育成、出店に向けたコーディネート、店舗オープン支援などに取り組む。

#### ②新しい地域文化の創出

新開地の環境やイベントにアートやデザインの要素を取り入れ、集客力を高めるとともに新しい魅力の創出や地域振興につなげていく。

#### ③持続可能なまちづくり

地域の自立を保ちつつ継続的で質の高い事業を展開していくため、自立した組織づくりを図っていく。

新開地に関心を持たれた方は、新開地ファンのホームページ <http://www.shinkaichi.or.jp/> をのぞいて、一度足をはこんでみませんか。

(都市計画総局まち再生推進課)

## 下唐櫃地区「まちづくり構想」の提案 自然豊かな農村景観を守りたい!!

神戸市は、市域の中央、東西に六甲山が横たわり緑の大空間を作り出しています。そのため都心を一步出ると、豊かな自然と触れ合うことができます。

北区下唐櫃地区は、大規模な住宅団地に隣接する一方、神鉄有馬口駅間近くに田園が広がる農村地域です。豊かで



清涼な水が流れ、かやぶき屋根の農家が立ち並び、背後に里山を抱える農村風景を作り出しています。

下唐櫃地区は「豊かな自然と歴史を活かし、みんなが、誇りを持って暮らし続けられるまちづくり」

をめざして平成16年にまちづくり協定を結んでいます。

しかし、住民の高齢化や非農家世帯が増える中で、改めてまちの将来像を考え、まちづくりの目標や方向性を「まちづくり構想」としてまとめ、平成23年8月、神戸市へ提案しました。「農地と宅地の調和」、「景観の重要性の共有と保全」、「多様な農地利用促進」「まちの魅力と価値の共有・協働」を目標とし、新たなルールづくりをめざした検討がはじまりました。今後も、「心のふるさとともいえる豊かな景観」を守り続けるために、住民と行政が協働して取り組みを進めていきます。

(都市計画総局まち再生推進課)



# 名取市への派遣～復興計画への支援を振り返る その1

神戸市都市計画総局計画部計画課 主査 橋 孝夫

東日本大震災により、未曾有の被害を受けた宮城県名取市を阪神・淡路大震災の経験を生かして支援するために、神戸市から多くの職員が派遣されています。都市計画総局計画部からも、7月1日～9月1日まで交代しながら計5名の職員が派遣されました。私は7月13日からの第二陣で派遣され、主に「復興計画の概略図と概算事業費の算出」(下増田地区)と「復興計画案作成に関する地域の合意形成支援」(閑上(ゆりあげ)地区)に取り組みました。この時の支援業務について、振り返ってみたいと思います。

## ○名取市の概要及び被害状況について

宮城県名取市。仙台市の南隣の人口7万余人の新しいベッドタウン。高速道路や仙台空港、JR東北本線と交通の便も良く、経済専門誌が企画している2010年の住みやすさランキングでは全国25位となっています。また、笹かまぼこの発祥の地、赤貝の水揚げ日本一、東北一のカーネーション生産などといった農水産資源にも恵まれた街です。



その名取市が3月11日の津波で沿岸部に大きな被害を受けました。人口7,000人を超えていた港町の閑上は、その大半が流失するなどの壊滅的な被害を受けました。

名取市の被災状況 (H23. 7. 25 現在)	
死亡者	911人
行方不明者	90人
住宅被害	全壊 2,778棟 大規模半壊 214棟 半壊 695棟
非住宅被害	全壊 914棟 大規模半壊 120棟 半壊 240棟

## ○名取市の体制

名取市役所は職員数757人という規模ですから、復興のために専属で配置できる職員も限られています。私が派遣された建設部震災復興室も、わずか7名の職員で業務を行っていました。

## ○復興計画策定の動き

名取市では、震災復興計画の策定に当たり、市民

の意見を反映させた提言を行うため、水産食品など各分野の学識経験者、国県行政機関、市民代表、各種団体代表ら24名によって構成



第3回未来会議(H23.8.6)

される「名取市新たな未来会議」が設置されました。未来会議にはワーキンググループという作業部会があり、そこで議論の叩き台となる骨格を作成します。また、未来会議とは別に、震災復興「市民100人会議」を開催するなど、直接市長と市民とが意見交換を行う場所も用意されています。

また、名取市議会からの独自の調査による復興計画の提案や市民団体からの提案もふまえた上で、これらの意見などを未来会議で議論した後に、提言へとまとめていきます。

## ○名取市での支援業務について

### ・復興計画の概略図と概算事業費の算出

まず、被災地域のうち仙台空港に近い沿岸部の市街化調整区域「下増田地区」の計画に取り掛かりました。この地区は200戸ほどの農家が点在している地域で、海拔0～3mといった低地であるため、宅地だけでなく農地も津波の被害を受けています。

市街化調整区域であること、集団移転の意志が比較的強いという要素から、防災集団移転促進事業を前提とした復興計画を進めています。私は、地元へのヒアリングに基づいて前任の派遣職員が作成した計画に修正を加え、さらにその図面を元にして事業の概算金額を算出しました。

### ・復興計画案作成に関する地域の合意形成支援

名取市では復興計画をまとめるにあたって、7月中旬から、一番被害の大きかった閑上地区の被災者及び商工会との意見交



名取市閑上地区

換会を開催しています。その中で、必要に応じて阪神・淡路大震災での神戸の事例を説明しました。また、この意見交換会で出た課題について、UR都市機構の職員と協力しながら対策を考え、名取市側に提案するなどを行っています。

次号では、閑上地区を中心に、意見交換会、これをふまえた復興計画案作成など、名取市への復興支援の具体的な取り組みを述べていきます。

まちづくりライブラリー  
(図書コーナー)

図書のご案内

～防災について考える～

こうべまちづくり会館 4階のまちづくりライブラリー(図書コーナー)より、所蔵図書をご紹介します。

1面で「東南海・南海地震」を取り上げていますが、ライブラリーには、「阪神淡路大震災」「東日本大震災」に関する図書、「防災」「安全安心まちづくり」に関する図書も取り揃えています。災害にどう備えればよいか、最近よく言われる「減災」「災害に強いまちづくり」について、考えてみませんか。



「津波災害－減災社会を築く」  
(河田恵昭著・平成 22年)

地震に伴う津波災害について、被災しない、被害を最小限に抑えるために何をすべきかが示唆されています。



「コミュニティFM進化論  
地域活力・地域防災の新たな担い手」  
(紺野望著・平成 22年)

新潟県三条市の水害に際し、コミュニティFMが果たした役割を基に、地域メディアの新たな可能性を探ります。



「災害対策全書①～④」  
(公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構災害対策全書編集企画委員会・平成23年)

災害への備えや発生後の対応をまとめた手引書です。地震や水害のほか、大規模事故やテロなど人為的な災害についても掲載されています。



「地震イツモノート」  
(地震イツモプロジェクト編・平成 19年)

阪神・淡路大震災の被災者にきいた『キモチの防災マニュアル』です。あいさつも、防災? 「モシモ」ではなく「イツモ」。地震との新しいつき合い方を考えます。

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

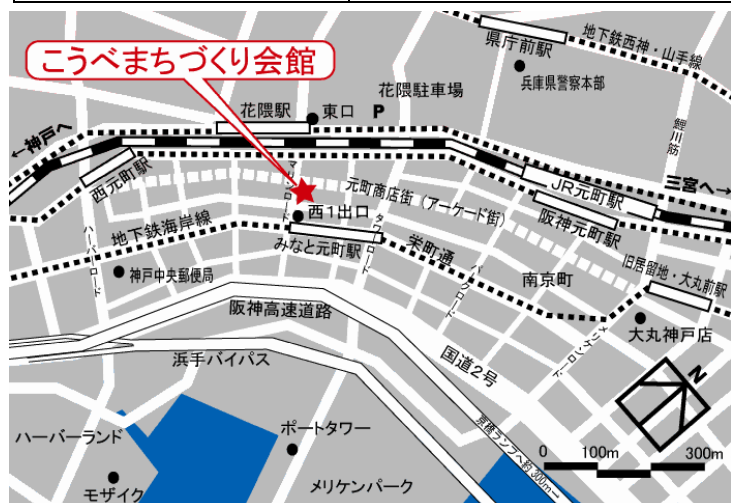
※展示期間が変更になる場合があります。

期 間	テーマ・内容	主催者
9/29(木) ～ 10/11(火)	防犯啓発パネル展	神戸市危機管理室
10/13(木) ～ 10/25(火)	東南海・南海地震に備えて	神戸市危機管理室
10/27(木) ～ 11/8(火)	くらしの中の計量	神戸市市民参画推進局

地階ギャラリーの予定

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。

期 間	テーマ・内容	主催者
9/29(木) ～ 10/4(火)	森の会展 〈油彩・水彩等〉	森の会
10/6(木) ～ 10/11(火)	神戸・大阪・京都レトロピルスケッチ原画展 〈水彩〉	善九郎工房
10/13(木) ～ 10/18(火)	スケッチクラブ サンツリー展 〈油彩・水彩〉	スケッチクラブ サンツリー
10/20(木) ～ 10/25(火)	第20回 葦の会展 〈油彩〉	葦の会
10/27(木) ～ 11/1(火)	第10回 きんもくせいのお会 絵画展 〈水彩・その他〉	きんもくせいのお会
11/4(金) ～ 11/8(火)	木製帆船模型作品展	神戸帆船模型の会
11/10(木) ～ 11/22(火) ※16日(水)は休館です	こうべまちづくり会館企画展 「KOBE・モノクロームの眺めー西田真人 日本画下絵展」	こうべまちづくり会館



神戸市立 こうべまちづくり会館

開館時間: 午前9時30分～午後6時(水曜日休館)

場 所: 元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話: 078-361-4523 FAX: 078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付: 午前9時30分～午後5時30分(水曜日休館)

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX: 078-361-4565